



青森県漁業士会会報

浜風

HAMAKAZE

14.9 vol.9

発行：青森県漁業士会
青森県水産振興課内
TEL 017-734-9593
編集：「浜風」編集委員会
印刷：東北印刷工業(株)

やっぱり中国は大きかった!!

—— 漁業士海外派遣研修 ——

●参加者

福田隆一 (平内町漁協東田沢)	山口隆治 (後 潟 漁 協)
濱谷一二 (横 浜 町 漁 協)	向井正喜 (尻 労 漁 協)
石田長吉 (市 川 漁 協)	西館信彦 (百 石 町 漁 協)
山下幸彦 (大 戸 瀬 漁 協)	石岡清美 (赤 石 水 産 漁 協)
長根幸人 (八 戸 水 産 事 務 所)	吉田雅範 (む つ 水 産 事 務 所)



私たちは7月1日～8日の8日間をかけて大連、煙台、青島の研究所、養殖会社、加工会社などを視察してきました。今回の研修に参加したのは、東青支部から福田さんと山口さん、三八支部から石田さんと西館さん、日本海支部から根上さんと山下さん、むつ支部から向井さんと私、普及所から長根さんと吉田さんでした。

中国の研究所は、研究だけでなくセールスを含めた販売まで行うようで、大連市水産研究所もその一つでした。世界最大のアワ
陸上養殖施設というだけあって、施設内にはおびただしい数の水槽が並んでいました。万里の長城や紫禁城などの歴史的建造物だけでなく、養殖場でも規模の大きさに圧倒されました。この研究所だけでなく、どこでも若い女性がたくさん働いており、色々

日 時	視 察 先	地 区
7月2日(火)	大連市水産研究所 遼寧省海洋水産研究所 大連水産養殖公司	大連市
7月3日(水)	大孤山捕撈場	大連市
7月4日(木)	屯徳水産有限公司	煙 台
7月5日(金)	青島大洋水産品加工場 青島朝洋水産食品有限公司	青 島
7月6日(土)	移動	
7月7日(日)	自由市場	北 京



なことに驚かされました。

日本へ輸出している会社が多く、加工方法等は日本企業から指導を受けたそうです。日本の漁業者の首をしめているのは、実は日本の企業かもしれません。

ホタテガイ養殖も沖に出て見ることができました。私どもが養殖している貝と同じ種類の貝も少量養殖していました。ただし、異常貝が多く、値段もそれほど安くはないし、レストランで食べても鮮度が悪いせい、おいしくありませんでした。

研修中に県庁から、「台風の影響で日程を変更するかもしれない」という連絡を受けましたが、私たちが「この天気図なら台風はこない」と断言したとおり、晴天の日が続き、予定どおりの日程を終えることができました。本研修を今後も継続して、多くの漁業士が見聞を広めることができればと思います。



(記：横浜町漁協 濱谷 一二)

支部トピックス

◆東青支部 CS

県内初の女性普及員誕生!!

平内町漁業協同組合連合研究会 会長 山本新太郎

今年のホタテガイ採苗は海セミの食害が心配されましたが、順調に推移し、各浜でじゅうぶん採取できました。さて、今年度から水産業改良普及所で初の女性普及員が平内地区担当になりました。「森 恭子」普及員です。

はじめ、女性ということで当連合会で話題になりました。「独身かな？ホタテを知っているのかな？」などと思いましたが、私たちの想像を超えて1級小型船舶の資格その他いろいろな体験・研修を積んできたす



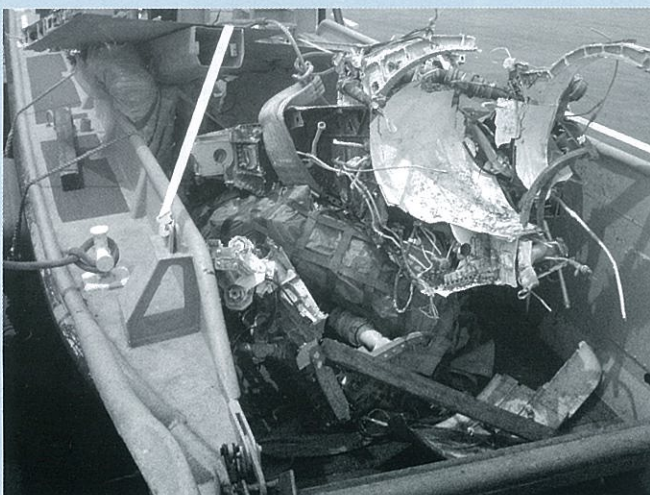
ばらしい女性だそうです。東田沢研究会の顔合わせでは、一人一人の意見・質問を親身になって聞いていた顔がイキイキしていました。カラオケでのテレサ・テンの歌をこれから何度か聞くことになると思います。お酒も好きみたいで、とても好感をもっています。

各支部の顔を覚えてきたと思います。ステキな笑顔でがんばってください。

◆日本海支部 S

西海岸にF16戦闘機墜落

赤石水産漁業協同組合 石岡清美



4月22日、底建網のロープをドラムで巻いている途中、船底に紅白の大きな影が見えた。

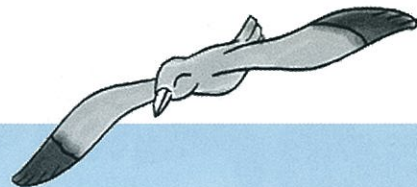
4月15日、風光明媚な深浦町千畳敷海岸に米軍三沢基地所属F16戦闘機が墜落。大戸瀬漁協では、パイロットを救出すべく墜落現場に向かいパイロットを救出した。

この日は南西の風が強く大時化。通常では漁船が沖に出ることは考えられない状況で、パイロットが救出された場所は落下地点から2kmの地点であつたらしい。

人命を救うためとは言え、自らの危険を顧みずに出港した方々には、同じ漁業者として賞賛したい。

底建網に絡まったものはそのときのパラシュート。すぐさま米軍に回収され、親指を天に突き上げ「Good」と言い残して帰って行った。

支部トピックス



◆むつ支部

白糠地区水産教室について

白糠漁業協同組合 伊勢田啓二



7月19日に漁業士会むつ支部会の白糠地区水産教室が、白糠小学生、老部小学生、南部中学生合計約170名を対象として、地元の恒例の祭りである「港来いフェスティバル」のプログラムの中に取り入れられ、白糠漁協、白糠漁業研究会等の協力により漁協の蓄養施設である「活魚館」前の広場にて開催されました。

本水産教室では、盛漁期を迎えるスルメイカの生態の勉強や皮膚の観察、地元で採れる魚についての勉強などを行いましたが、中でも白糠沖の水深500mの所で釣れた体長1.5m以上の「アブラボウス」の解体ショーは、私たち同業者でもなかなか見られない珍しいもので、子供たちから盛んに歓声があがっていました。また、最後に行われた「お魚ウルトラクイズ」では、子供たちは珍問・難問に首をひねり、○×の札に一喜一憂しながら盛況のうちに閉会となりました。

本水産教室は今回初めて白糠地区で開催したのですが、今後も地元小中学生の要請があれば「港来いフェスティバル」の一環として協力して開催したいと思います。また、今回の水産教室を契機として、小中学生の中から将来何人もの漁業後継者が育っていくことを大いに期待します!!

◆三八支部

産地表示が呼んだ高値？

小川原湖漁業協同組合 沼辺正孝

小川原湖から、チョット景気のいい話。

最近、食品の偽装が問題となっていますが、シジミでも国産品に輸入品をブレンドして販売している例があったようです。

小川原湖のシジミは、一般には知名度が低いように感じますが、今年3月に問題となった千葉県で行われていた十三湖産シジミと小川原湖産シジミのブレンド報道や、時を同じくしてテレビ放送となった健康食品としてのシジミをイメージした特集などが重なり、3月には過去最高の高値を記録しました。それ以来、シジミの単価は昨年に比べ約1.5倍の状況が続いています。

産地表示が高値を呼んだのかどうかは分かりませんが、最近国内で進んでいる国産品と輸入品の差別化が、小川原湖産シジミの追い風になっていると思っています。



入札にかけられる前のシジミ

あの人は、いま…

～あの頃の思い出がよみがえる?!～

早いもので「浜風」が創刊されてから今年で5年目を迎えました。そこで、創刊当時の青森県漁業士会事務局メンバーの現況を紹介します。懐かしい顔がいっぱいですね。



青森県海区漁業調整委員会事務局長
早川 豊
(平成9年度～10年度担当)

日本海、陸奥湾、津軽海峡、太平洋と異な

った海で活躍する漁業士の皆さんが、より一層仲間意識を深め地域貢献しやすいように、また、その活躍を大いにPRできるように考えたのが機関誌「浜風」です。第1号発行の嬉しかった感激が甦ってきました。昨今、地域で或いは漁協の幹部として活躍される多くの漁業士の方々に頼もしく思います。今は苦しい時代。一歩先を行く早めの情報が必要です。今後とも「浜風」を基盤に、浜の仲間や一般・異業種との情報交換を促進させ、皆さんが益々発展・ご活躍されることを期待いたします。



青森県土整備事務所主事
小笠原 千恵子
(平成10年度担当)

漁業士の皆さん、そして元水産部の皆さんお久しぶりです。私は、職場では庶務のおばさん、家庭では、5歳と2歳のママとして毎日めまぐるしく過ごしています。

皆さんとは、イベントで時々お会いしていましたが、今回の「浜風」原稿依頼を機に、漁業士会の躍進を知り、ビックリしました。漁業士会のホームページ開設、IT講習会の開催、女性漁業士の誕生等、5年前、普及育成班で皆さんと語った将来の漁業士像が全て実現されているのではないですか!!

遅ればせながら私も「浜風」をダウンロードし、見覚えのある顔を紙面に探しながら、漁業士も公務員風の文章を書くようになったなと感心しながら、隅から隅まで楽しく読ませていただきました。

最後に、漁業士の更なるご活躍を期待しています。(また一緒に仕事がしたいですね。)



水産増殖センター 技師
篠原 由佳
(平成12年度～13年度担当)

平成12年に入庁していきなり漁業士会事務局を担当することになり、右も左もわからないまま次々と行事などをこなして2年間、あっ!という間でした。経験豊富な漁業士の皆さんにとっては、私のような新米はいろいろと至らない点多かったと思いますが、私のほうは皆さんから多くのことを教えられました。この経験は、今後きっと生きてくるはず(?)です。

現在は増殖センターで採苗速報を出したりなど、ほたてに関する仕事をしています。三八漁業士会や日本

海支部の方々とは、お会いする機会がめっきり減ってしまって残念です。何かあったら呼んでください。湾内の漁業士の皆さんには何かとお世話になる機会もあると思いますので、引き続きよろしくお祈りします。

現在、三戸地方農林事務所八戸水産事務所に勤務しています。私の事務所には水産課と普及課があり、今も普及課を通じて地域の漁業士の方々とお付き合いをさせていただいています。

現在行われている漁業士を対象とした海外研修は私が普及関係の業務に携わっていた時に予算化したものです。このような試みの中から少しでも現在の厳しい環境の元にある漁業を前進させる発想が生まれてくればと願っています。



三戸地方農林水産事務所八戸水産事務所長
田村 真通
(平成11年度担当)

お久しぶりです。皆さんの活躍を新聞などで見るたびに「またいっしょに仕事がしたいな」と思います。(冗談じゃないって思っている人いませんか?)

現在は、たくさん溜まったホタテの貝殻をどうやって利用するかで四苦八苦しています。ぜひ皆さんのお知恵をお貸しください。今も昔も漁業士会の方々は頼りになるんですよね(^.^)。



流通加工課総括主査
佐々木 章子
(平成8年度～12年度担当)

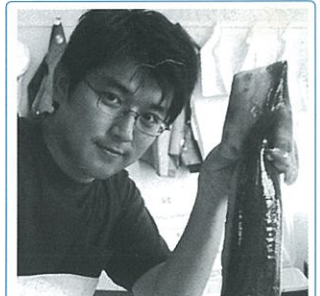
現在は、五所川原市にあります北地方農林水産事務所の農業振興課におります。

私が事務局で「浜風」の作成に携わったのは1年間だけでしたが、前担当の小笠原さんのアイデアを引継ぎ、私が担当した年から編集委員による作成が始まりました。船橋さんをはじめとする当時の編集委員の皆様や他の漁業士の皆様の協力を得ていい紙面をつくることができました。これからも斬新な発想を取り入れた紙面が作られることを楽しみにしています。



北地方農林水産事務所主事
齋藤 昌彦
(平成11年度担当)

水産試験場でアカイカと格闘中の油野です。アカイカは体重5kgを越える大型種で比較的魚価が高く、本県イカ釣り漁業の中でも重要な魚種となっています。この号ができる頃、現在は東経160度付近でアカイカ漁場調査中。太平洋のうねりのなか、大型アカイカ及び船酔いと格闘中です。苦しい…もう胃液しか出ない。どなたか船酔い対策教えてください。酒飲め!ってというのは無しですよ。



水産試験場 技師
油野 晃
(平成13年度担当)

【編集後記】
新コーナー「あの人は、いま…」は、ふだん「浜風」紙面には登場しない事務局員の顔を見ることができる貴重なコーナーです。自分も5年後の「浜風」創刊10周年のときにでも登場するのかな?などと少し楽しみにしています。
(記:普及育成班 小枝 光春)

連絡先: むつ支部 0175-22-8626
三八支部 0178-27-5858
日本海支部 0173-72-4300
東青支部 017-774-0772

日本海支部

～八木沢健一レポート～

東青支隊

「海の駅『わんど』オープン！」

新鮮な野菜や魚、加工品、観光情報など鱈ヶ沢町の「モノ、味覚、情報」を提供する施設として、6月29日、海の駅『わんど』がついにオープンしました。

当日はオープニングセレモニーが行われ、町長が「海の駅オープンにより、第一次産業と観光産業の振興が深まる」とあいさつし、続いて富田重次郎県議会議員、町議会議員より祝辞が述べられました。オープンセールとして、抽選会や特売・割引サービス、まぐろ解体ショーがあり、農産物直売所『あじ・彩・感』では漬け物や花・野菜を販売していました。駅内は身動きがとれないほどの観光客で賑わいました。

「西海岸美化推進 DAY」

小雨交じりの6月6日、「西海岸の浜をきれいにしましょう」を合い言葉に『西海岸美化推進 DAY』が開催され、鱈ヶ沢町内外から約700人のボランティアの方々が参加し、七里長浜港周辺の海岸沿いのゴミを拾いました。これは、美しい海岸線の環境保全のために西海岸三町村で構成する西海岸美化協議会が主催したもので、同日、深浦町・岩崎村でも開催されました。

参加者はゴミ袋を片手に、空き缶や漂着ゴミを1つ1つ丁寧に拾っていました。



支部トピックス

拡大版

東青支部

「県内初の女性普及員誕生！(Part2)」

茂浦支部研究会 会長 蛸崎 憲治

今年度の普及員は初めての女性ということで、研究会とうまくやっていけるのかと不安でしたが、月日が経つにつれて、だんだん会のなかにとけこんできて、上手くやっているとします。なによりも真面目に仕事に取り組み熱心に研究している姿を見て、大したものだと思います。研究会員も彼女に会えるのを楽しみにしているようです。一緒に飲む機会があるときなど、とても楽しそうに話していました。やっぱり、女性だということでは会話も弾むのでしょうか？当会の活動も順調にっています。もしかして普及員が森さんになったせいでしょうか？彼女には一日も早く仕事になれて良い仕事をしてほしいし、がんばってほしいと思います。

「海浜清掃について」

平内町漁協茂浦支所 常任理事 須藤十一郎
(下段写真左から3人目)

7月7日に、東青漁業士会で海岸清掃を行いました。

東青漁業士会の皆様、この度は茂浦地区の海岸清掃してもらいありがとうございました。お礼申し上げます。おかげさまで海岸が明るく見えます。

今後、ますます漁業士会の活躍を願っています。

